

キーワードから考えることばの学習(11)  
～自己認識について考える～



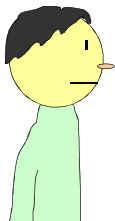
言語・学習指導室  
葛西ことばのテーブル  
三好純太

「自分」を意識する、  
「自分」を認識する、とは、  
どんなことだろうか…



第5回学習会「心理洞察」からのスライド

工場で…



ツトム君、3時までに、  
30個、箱を  
組み立てられるか？



ぼくは、3時までに、箱を、  
30個、組み立てられるか？



自分の能力を  
認識する

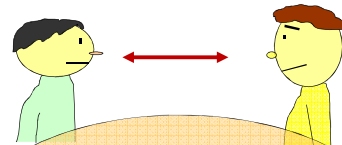


どんな応答が考えられるか？




- はい できます
- できません わかりません
- できるかなあ… やってみます
- できると思います 20個ならできます
- がんばれば、できると思います

しかし…  
このような  
場面で



発達障害の子どもは  
不適切な応答をして、  
悪気なく、相手を欺い  
てしまうことが多い

不適切な応答とは・・・ 

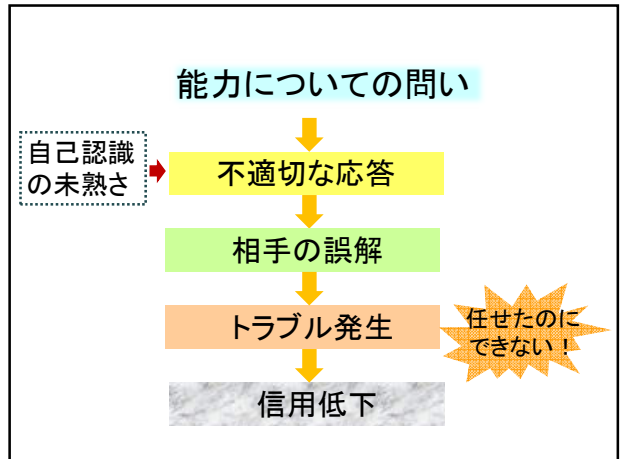
実際はできないのに、「できる」と言う

実際はできるのに、「できない」と言う

返事・相槌のつもりで「はい」と言ってしまう

自信がないのに「できる」と断言する

判断できないときに、「わからない」と言えない。



しかし・・・そうは言っても

物事を適切に判断し、適切に表現する、  
ということは難しい

自己認識だけでなく  
さまざまな能力が求められる


箱を組み立てたことは、ある


いつも1時間で30個ぐらい、作っている

そうすると、箱は1個作るのに2分ぐらいかかる

いま、2時10分だ。

3時まで、あと50分。50分で25個・・・うーん、30個ならがんばればできるかな。

 箱の組み立て

箱を組み立てたことは、ある	経験の認識
いつも1時間で30個ぐらい作っている	習慣の認識
そうすると、箱は1個作るのに2分ぐらいかかる	能力の認識
いま、2時10分だ。	数的能力
3時まで、あと50分。50分で25個・・・うーん、がんばればできるかな。	時間の理解
 がんばればできると思います	推論能力
	意図の認識
	意欲・意思

自分のことを認識し、判断を下す

日常のコミュニケーションにおいて  
さまざまな形で求められている

作業や学習の中で おしゃべりの中で

---

相手からの問いとして 自からの問いとして

**学習や作業の中で**

学習や作業の円滑な進行・達成に関わることが多い

↓

不適切な応答や判断が、トラブルを招くこともある

でも・・・このような自分や他人の利害や損得に関わる場面だけではない

**日常のおしゃべりの中で**

日常のおしゃべりにおいても、私たちは、つねに自己認識を問われている

↓

不適切な応答

↓

会話がかみ合わない

あ、あの映画見た？

コミュニケーションにおける不全感

**自からの問いとして**

(ぼくは・・・) (わたしは・・・)

私たちは、さまざまなことを、自分自身に問いかけながら生きている

ぼくには、どんな仕事に向いているんだろう？

何が得意か 何が好きか etc..

**今回の学習会の目的**

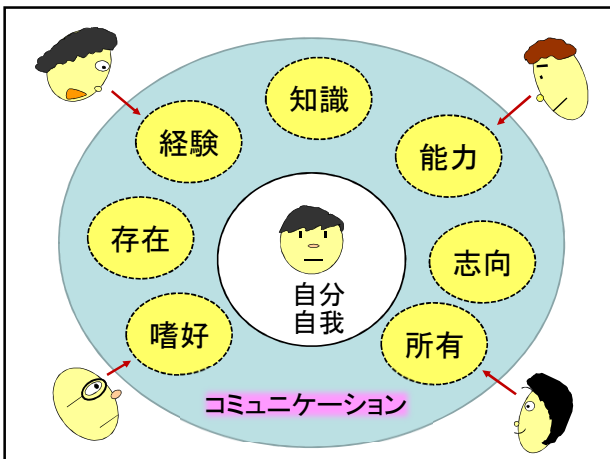
コミュニケーション場面を中心に自己認識を分析する

↓

- 適切な応答のためには何が必要か。
- 自己認識を高める活動・学習は何か。

そして・・・

「自分」とは何か、という問題を考えてみたい



**自己意識・自己認識の形成(発達)**

自分をみつめる自分

**概念の形成(発達)**

所有 経験  
能力 知識

互いに影響し合いながら育って行く

## 今回のキーワード

コトの可算化

常識

クロス処理

確信度

手を止める瞬間

これまで、  
自己認識をテーマにした教材を  
いくつか作成してきた

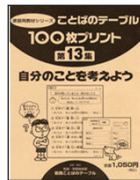
さくぶん練習ワーク

じぶん日記問題

100枚プリント集

自分のことを考えよう

自分についての  
認識・判断を述べる教材



「自分のことを考えよう」の製作目的

自分についての、  
さまざまな問いかけを通して  
自己認識の向上を促す

自分に気づく／自分を意識する

自分のことを考えようの6領域

経験

所有

能力

存在

知識

嗜好

経験

あなたは、パンダを見たことがありますか？

所有

あなたは、ギターを持っていますか？

存在

あなたの家には、こたつがありますか？

**能力**

あなたは、でんぐり返しができますか？

**知識**

あなたは、お母さんの誕生日を  
知っていますか？

**嗜好**

あなたは、バナナが好きですか？

これらの問いに、  
どのように答えるのが適切だろうか。

これらの問いに、適切に答えるには、  
どのような能力が必要か。

これらの問いに、  
適切に答える能力を育てるには、  
どのような活動・学習が必要か。

**経験**

ひろしくん、  
サッカーしたこと、ある？



ぼくは、サッカーをしたことが、  
あるだろうか？



**経験概念** の特質

過去の想起

数の認識

応答のプロセス

● 質問文の理解



● 自己認識(自分についての判断)



● 判断を表現する言語能力

● 質問文の理解

サッカーしたこと、ある？

① 語彙の理解

サッカー やる こと ある

② 文法の理解

疑問文 過去形 判断文

サッカー

サッカー  
したこと、ある？

サッカーについての知識

知っている

自己認識へ

知らない

応答不能もしくは  
応答保留

サッカーという名詞を 知らない場合

考えられる応答(判断)

言葉を知らないの  
だから経験は、ないと判断  
⇒「やったことない」

言葉を知らないだけで  
やったことあるかも

言葉を知らない  
から、判断できない  
⇒「わからない」

判断できる可能性は  
ゼロだろうか・・・

たぶん・・・

もっとも、一般的と思われる応答は

「サッカーって、なに？」  
と、相手に説明を求める

質問の対象を、より正確に知った上で、  
経験の有無を判断しようとする

「サッカーって、なに？」

相手への問い返し

より正確な判断を、  
目指そうとする姿勢

一定水準以上の判断能力や  
自己認識力が備わっている

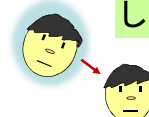
なぜ、問い返しが、  
自己認識の高さを表すか

より正しく、自分のことを把握  
しようとする態度を持っている

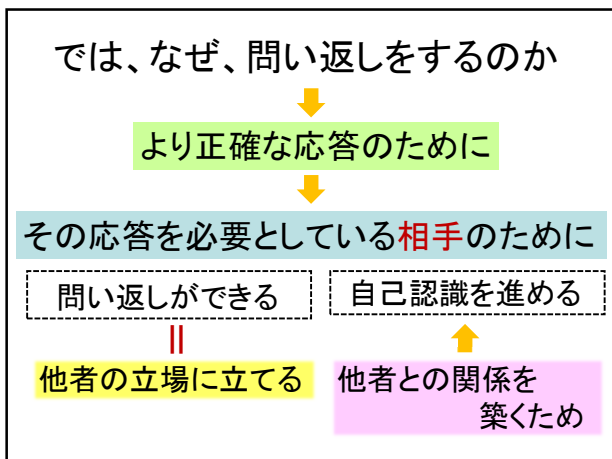
内省的態度

自分自身を、客観的に  
把握・分析できる

メタ認知的洞察



自分を、見つ  
める、「自分」  
が育っている



自分のことを考えよう

**経験**

経験 1 (月 日)

やったことのあるスポーツ・やったことのないスポーツ

ある・ない・わからないに、○をつけてね

① サッカー [ある・ない・わからない]

② スキー [ある・ない・わからない]

③ ドッチボール [ある・ない・わからない]

④ スケート [ある・ない・わからない]

⑤ バンジージャンプ [ある・ない・わからない]

「自分のことを考えよう」のねらい①

判断できないことを、  
判断できない＝「わからない」と答えてほしい

- \*「わからない」は高度な判断
- \*「わからない」や、「知らない」、「できない」などの否定解答を、嫌がる子どもが多い

否定解答への偏見をなくそう！

「自分のことを考えよう」のプリントで、わからない、できない、などの解答をしたときに花マル✿をつける

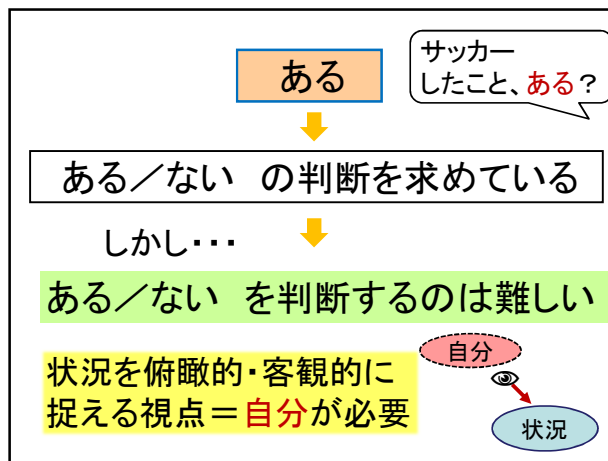
【知らない・やったことがない・できない】などを、正確に判断して相手に伝えられる方が、肯定的な応答をすることよりも、大切で、優れている、ということ、理解させる

「自分のことを考えよう」のねらい②

質問がわからなかったときに、  
問い返しを、してほしい

おかあさん、  
バンジージャンプって、なに？

回答の適切さだけでなく、  
課題を進めるプロセスが大切





**ある・ない**

1      2      3      4      5

2にはない。3にはある

状況全体を把握し  
ある・なしを判断し  
それを言葉で表明する

**同じ・違う**

1      2      3

1は同じ。2は同じ。3は違う。

状況全体を把握し  
同じ・違うを判断し  
それを言葉で表明する

**ある・ない** や **同じ・違う** を

発達障害の子どもも、  
直感的・無意識には、  
わかっていることが多いと思われる

ない…

きっと、まずは、そのような気づきから  
「自分」は、始まって行くのだろう

👁️ 「手を止めるとき」

でも、より確かな「自分」という意識を  
持つために大切なのは、

**その認識を、  
コミュニケーションの中で  
表現する・表現できること**

あります      なのではないか

ある

他者とのコミュニケーションの中で  
**「ある」「ちがう」と、表現する**

↓

ことばにより、**判断**を示す

その行為に、私たちは、子どもが  
「自分」を持っていると、感じる

そして、子どもにおいても・  
自分の判断を、他者から評価されること  
によって、より「自分」が意識化されて行く  
のではないだろうか

**こと**      サッカー  
した**こと**、ある？

名詞句を作るための形式名詞

サッカーした **こと** が、ある？

↓

名詞

リンゴ が、ある？



## コトの可算化

経験を数えられものにする

サッカーした **こと** が、ある？

これは、もっと詳しく尋ねることもできる

↓  
サッカー、**何回した** **こと** が、ある？

そして最初の質問は、より精密に言うと・

サッカーを1回以上した **こと** ある？

となる

例えば・

「サッカー、ある？」や

「サッカーした、ある？」

という質問は、ありえない。

↓  
「**こと**」という形式名詞が、  
つけられることによって、  
その経験の存在の、  
ある・なしを問うことができる

そして、経験のある・なし とは、

経験を、数に置き換えること

に、他ならない

経験がない=0

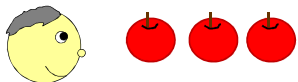
経験がある=1~

では、私たちは、どのようにして、  
経験を数えられるように  
なるのだろうか

子どもは、まず、何を数えるか

目に見える具体物

3こ



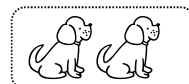
目に見えないもの 物・事

目に見えない物事

モノ

コト

記憶の中の  
具体物の数



イヌが2匹  
いたな・

行為の回数

時系列の数え



2回  
鳴いたな・

### 経験の有無を答える

記憶の中の行為の回数を数えること

そのためには、何が必要か

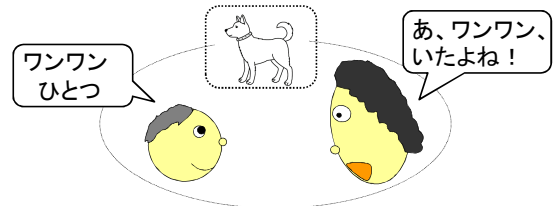
記憶  
想起

時間意識

自己同一性

行為の  
可算化

### 記憶想起の能力

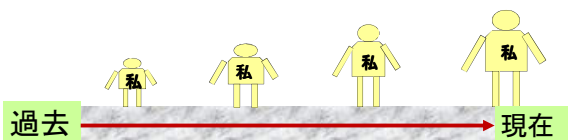


子どもの記憶想起を大人が援助  
= 共同想起の大切さ

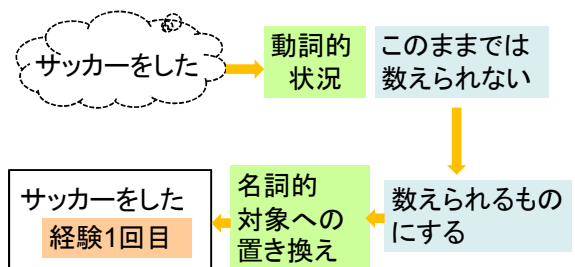
自他の心の存在への気づき → 自我形成

### 時間意識・自己同一性

時間の流れの中で、  
自分という存在が、続いている  
という自覚



### 行為の可算化



### 名詞的対象への置き換え

「こと」をつける

サッカーをした **こと** 名詞句

★ 数えられるものになる

サッカーした **こと**    サッカーした **こと**  
サッカーした **こと**    サッカーした **こと**

「こと」の働きは、可算化だけではない

おもしろい **こと**    いけない **こと**

おもしろい **こと** は、ゲームや遊び

↓    AはB=判断文

抽象的なことを、概念として捉え、  
判断の主題にすることができる

経験の自己認識に必要なもの



「～こと」の表現を理解し、  
また、使えるようになる



経験という概念の形成

だから本当は、経験を問われることと、  
相手に経験を問うことは、対になっている



けんくんは、  
サッカーした  
ことある？



自分にも他者にも、  
「経験」がある、と知っている

自他の  
共有性

\* 経験はそれぞれに違っている

自他の  
独自性

自己と他者の認識が基盤

「こと」を育てよう

● ことばを使う

入れ物から  
中身へ

こと



おかあさん、  
食べたこと  
あるよ！

経験

おもしろいこと  
いっぱいあっ  
たね。

口頭作文

今日やったこと

学校に行きました。  
1時間目は、国語をやりました。  
2時間目は、音楽をやりました。  
.....

「～こと」の文がわかるためには



複文の理解が必要

小さい文

ママが食べた リンゴ は腐ってた

大きい文

\* 複文の学習が重要

● 経験を数える

ディズニーランドに行ったこと

2012年10月5日

2013年2月16日

2013年9月20日

2014年2月10日

経験を  
数えられる物に  
置き換える



4だ！

行為に関係するその他の問い

「サッカーした？」 特定の経験の判断

「サッカーする？」 未来・意思の判断

「サッカーしてる？」 習慣の判断

これらの問いかけを、正しく理解できず  
不適切な応答をする子どもも多い

## 常識

社会のモノサシの平均値

## ライオン問題を考える

ライオンって、  
見たことある？

この質問にどのように答えるだろうか？

ライオンって、見たことある？

たぶん、日本人同士の会話であれば、  
ほとんどの答えが「ある」だろう。

じゃあ、どこで見た？

たぶん、ほとんどの答えが  
「〇〇動物園」だろう。

日本人のほとんどは、  
ライオンを見た経験、を問われたとき

動物園で飼育されている、  
生(?)のライオンを見た経験を  
答えるのではないだろうか

また尋ねる人も、その条件での経験を  
前提として、尋ねていると思われる。

でも、もし同じ質問が、  
世界の別の場所で問われれば、  
どうだろう？

もしアフリカの奥地だったら・・・

ライオンって、見たことある？

あるよ。  
このまえ、向こうのサバンナで見たよ

もし、アラスカやグリーンランドだったら

ライオンって、見たことある？

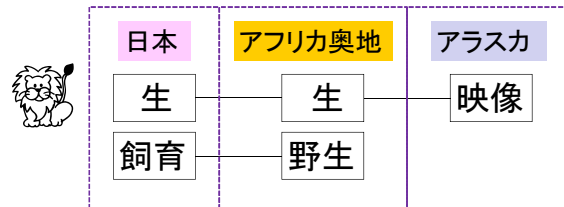
あるよ。  
このまえ、テレビの動物番組で見たよ

と、答える人が多いのではないだろうか

ライオンって、見たことある？

あるよ

「ある」の内実



私たちの会話は、  
会話をしている人同士の  
常識で成立している

常識とは何か

みんなが当たり前と思うこと

でも、当たり前には、いろいろある

人類全体の  
当たり前

日本人の  
当たり前

鈴木家の  
当たり前

たとえば、コミュニケーションにおける  
人類共通(?)の当たり前のひとつは..

グライスの協調の原理(会話の原則)

- ①嘘は言わない 意図的には別
- ②必要なだけの情報量 無駄なことは言わない
- ③関係のないことは言わない
- ④順序立てて言う

\* この原理に基づいて  
私たちは会話を判断している

しかし、文化によって常識は異なる

私たちは、自分と相手が属する文化の  
常識を携えてコミュニケーションしている

だから、  
自己認識を問われるコミュニケーションも  
常識を前提になされている

食べ物として  
...だな。



バナナって  
好き？



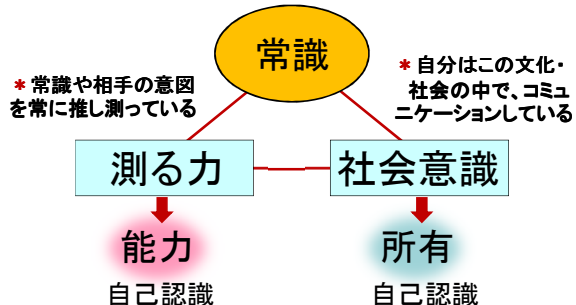
常識について、別の見方をすると...

常識は、その社会(文化)における  
判断の平均値と考えられる

ふつう、大多数の人は、  
こう考えるだろう.. **考えを測る**

物事を測る能力が、自己認識にも必要

常識の形成は、2つの能力の発達と歩みを共にしている



### 「常識」を育てよう

● 日常の基本知識を身につける

\* スキーマ(知識)と  
スクリプト(行為系列)

お手伝い・遊びの大切さ

でも・・・それだけでは、さっきの  
ライオン問題には対処できない

なぜなら、ライオンは、自分が  
直接体験できるものではないから。

ライオンは、日本ではなぜ、動物園で  
見ることが当たり前(常識)なのか

- \* 猛獣で危険
- \* 熱帯に棲む動物
- \* 普通、家では飼えない

= ライオンに  
ついての知識

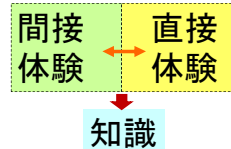
子どもの直接経験だけでは形成されないもの

### ライオンについての知識

↓  
読書や映像、教育などによって形成

\* 間接体験・二次的体験

本を読もう！  
映画を見よう！  
勉強をしよう！



所有

ひろしくん、  
野球のバット持ってる？



ぼくは、野球のバットを、  
持っているだろうか？



自分のことを  
考えよう

所有

名前 (月日)

自分もっているもの・もっていないもの

もっている・もっていない・  
わからないに、○をつけてね

① ふてばこ  
[ もっている ・ もっていない ・ わからない ]

② 「桃太郎」の絵本  
[ もっている ・ もっていない ・ わからない ]

③ スカート  
[ もっている ・ もっていない ・ わからない ]

④ 自転車  
[ もっている ・ もっていない ・ わからない ]

⑤ 野球のバット  
[ もっている ・ もっていない ・ わからない ]

## 所有概念の特質

具体物の想起

状況の認識

応答のプロセス

- 質問文の理解
- ↓
- 自己認識(自分についての判断)
- ↓
- 判断を表現する言語能力

- 質問文の理解

バット、持っている?

バット    持つ    ている

持つ

\* 動詞「持つ」の表す意味


- ① 手に握る
- ② 所有している
- ③ 携帯する

etc...

語の多義的  
理解が必要

～ている


\* 状態をあらわす表現

「電気がついている」 

所有は状態

過去 → 現在

バットを所有していない    バットを所有





## 所有という概念

自分のもの → 個人の資産

だから、所有の自己認識には  
個人という意識が必要

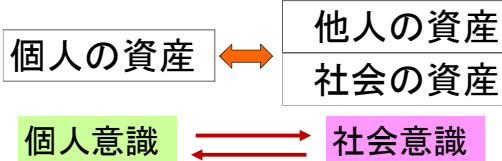
では、個人意識は  
どのようにして育つのだろうか

多分、最初は、  
おもちゃの取り合いのような、  
自分と他者との対立だろう



でも、まだそれは、使用权のような  
未成熟な所有の概念

本当の「所有」の概念とは、  
社会との関係性の中で形成される



だから、所有の概念を確立するためには  
社会や組織、もしくは公共、という  
概念を育てて行く必要がある

それなら・・・  
社会意識は、どのように育つのだろう

自分が、ある社会や組織に  
属しているという意識の成立  
さくら組・〇〇幼稚園・1年2組・赤組・・・

「運動会でぼくたち  
白組が勝った！」 ← 組織への帰属意識  
・一体感

組織への帰属意識・一体感

↓  
自己意識の拡大

社会 = 自分

公共のマナー・福祉

公園にゴミを  
捨てない

社会全体に、自分を  
広げて考える・感じる

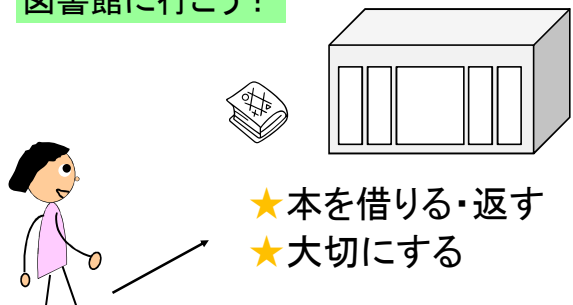
「所有」概念の形成を図る

↓  
他者や社会に対する意識を  
育てて行くことにつながる

↓  
自分を社会的存在として認識する

↓  
社会のルールへの遵守・協調

図書館に行こう！



★本を借りる・返す  
★大切にする

自分の物と、公共の物の対比

存在

家に、野球のバットある？

学校に、プールある？

↓

家(家庭)

学校

組織の社会概念が必要

能力

ひろしくん、肉まん3個、食べられる？

ぼくは、肉まんを3個、食べられるだろうか？



自分のことを考えよう

能力

能力名	できること	できないこと
① てつぼうの さかあがり	[ できる ]	[ できない ・ わからない ]
② うで立てふせ	[ できる ]	[ できない ・ わからない ]
③ てんぐりがえし	[ できる ]	[ できない ・ わからない ]
④ さか立ち	[ できる ]	[ できない ・ わからない ]
⑤ けんけん	[ できる ]	[ できない ・ わからない ]

能力概念の特質

予測の能力

数の認識

## 応答のプロセス

### ● 質問文の理解



### ● 自己認識(自分についての判断)



### ● 判断を表現する言語能力

### ● 質問文の理解

肉まん、3個、食べられる？

肉まん、3個、食べることができる？

肉まん 3個 食べる れる  
できる

## られる

\* 可能の助動詞「られる」「れる」

\* 動詞「できる」

食べない

意思

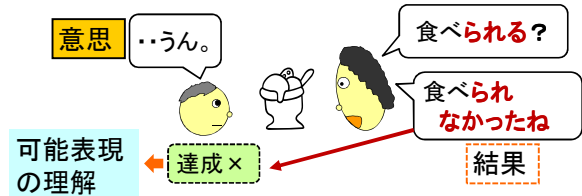
食べられない

能力

◎ 混同して使う子どもが多い

## 「能力」の概念の形成

可能を表現することばの習得が、  
密接に関わっている



## 「能力」の概念に気づかせる



\* 行為の達成感の形成が必要

達成のプロセス

企図(意思) → 行為 → 結果



問題解決

人間は問題解決の生き物

毎日、自ら問題を設定し、



その解決を図ろうとしている

そのためには、自分の能力を  
測らなければならない

だから

能力の概念は、  
生きる根本に関わっている

能力の認識が、  
問題解決のカギとなる



未来の事態の予測 未来の  
時間概念

能力の洞察には、  
予測する能力が求められる

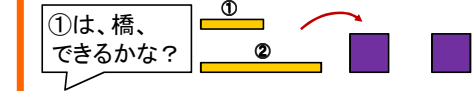
「もし」という仮定のもとで考える力

推測力

能力の洞察力を高めるために

● 達成の予測をさせよう

モノ(物理的状況)



ヒト(意図・能力)

他者の能力を考えさせる



はじめくんは、いま2才。  
好きなのは、アンパンマンだよ

● ひとりで、買い物ができるかな？

● 漢字が書けるかな？

しかし・・・

能力を測るのは難しい

その要因は・・・

① 未来の事態を推測しなければ、  
ならないから

② いくつかの条件を考えなければ、  
ならないから

クロス処理

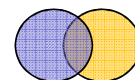
複数の事柄を処理する

クロス処理

複数の要素を同時に処理する

A × B

A かつ B



ツトム君、3時までに、30個、箱を組み立てられる？

\*これを判断するには、次の事柄を考慮しなければならない

- 条件① 3時まで
- 条件② 30個
- 条件③ 箱の組立

これらの条件を掛け合わせて判断する必要

能力の判断

↓

クロス処理が求められることが多い

包丁でリンゴの、皮むける？

- 条件① 包丁で
- 条件② リンゴの

皮をむく

発達障害の子どもは、クロス処理への対応が難しい

複数の要素を同時に処理できない

↓

ひとつの要素のみで、判断(応答)をしてしまう

できるよ

3時までに、箱、組み立てられる？

事実上…

箱は組み立てられるが、3時までにできるかは、考えていない

自己認識に関わる判断は、能力に関わらず、同時に複数の条件を処理しなければならないことが多い

- 父with × 映画 (経験)
 

お父さんと、映画、観に行ったことある？
- アフリカ × 国 (知識)
 

アフリカに、どんな国があるか知っている？

クロス処理に求められるもの

↓

問いを理解する言語能力

3時までに、30個、箱を、組み立てる

\* 多語文の理解力が必要

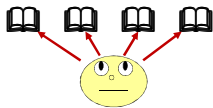
文法能力 記銘力 注意力

## クロス処理に求められるもの



### ワーキングメモリー(作業記憶)

- \* 同時に、複数の事柄を考え、処理



第6回学習会「生活の中のことばの学習」からのスライド

## 生活の中のクロス処理 金魚の飼育

金魚が  
死んだ...

- \* 3日前、水道水を入れた
- \* エサをたくさんあげた
- \* 3日間、水を替えなかった

どれが原因か? ★原因はひとつか複数か

条件を組み合わせてみる **クロス処理**

エサ大量 × 水替えなし = 水質低下!

## クロス処理力を育てる課題

### ● 日常生活の中で

さまざまな「問題解決」を用意する

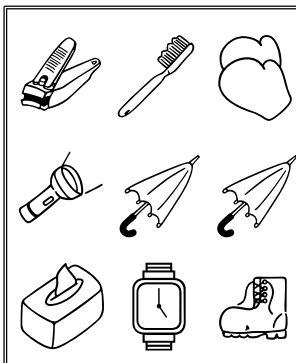
- \* 鞆に勉強道具をしまわせる
- \* 生き物の世話をさせる
- \* 食器の用意をさせる etc..

## クロス処理力を育てる課題

### ● 学習課題で

- \* 複数の作業を同時に処理させる
- \* 複数の事柄の関連性を考える

## 判断ワーク



手袋は、ありますか

( はい )

電話は、ありますか

( いいえ )

傘は、3本、ありますか

( いいえ )

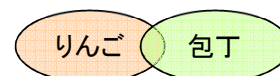
傘 × 3本

## 二つのことばで文を作ろう

りんご  
ほうちょう

( ほうちょうでりんごを切る )

りんご・包丁に共有される動詞を選ぶ



# 知識

ひろしくん、  
日本で一番高い山、知ってる？



ぼくは、日本で一番高い山を  
知っているだろうか？



## 知識概念 の特質

正確さ・深さ・広さがある

状況の認識

## 知識の構造



「リンゴ」についての知識

果物の一種 **正しい**

リンゴは赤い **不正確**

知識の正確さ  
・深さ・広さの問題

種から育てて収穫 **間違い** → **誤信念**

知識を問われて、  
はっきり**自信**を持って  
答えられないことは多い

えーと..  
それはたしか..



ニュートンは、  
どこの国の人？



自分のことを  
考えよう

知識

知識 1 (月 日)

自分が知っていること・知らないこと

知っている・知っていると思うけど自信がない・知らない  
知らないに、○をつけてね

① カブト虫の 足の数  
[ 知っている・知っていると思うけど自信がない・知らない ]

② にわとりの 足の数  
[ 知っている・知っていると思うけど自信がない・知らない ]

③ タコの 足の数  
[ 知っている・知っていると思うけど自信がない・知らない ]

④ オートバイの タイヤの数  
[ 知っている・知っていると思うけど自信がない・知らない ]

⑤ サクラの 花びらの数  
[ 知っている・知っていると思うけど自信がない・知らない ]



しかし・・・

知識に限らず、  
どのような領域においても

判断に自信が持てないことは多い

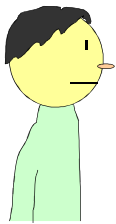
そのとき大切なことは・・・



それを相手に伝えること

## 確信度

確かさの信用度



ツトム君、3時までに、  
30個、箱を  
組み立てられる？

明確に、Yes-Noで  
答えられるだろうか？



私たちは、明確なYes-Noで  
答えられないときどうするか？



自分の応答(判断)に、  
それに対する**確信度**を添える



できる確率は・・・  
50%くらいだろうか

確信度を伝えることは、なぜ大切か

私たちは、  
受け取る情報の確実さで  
自分の行動を決めている



はい！  
できます

自信あるんだな。  
じゃあ、一人で、  
やってみよう

たぶん、  
できます

ちょっと不安だな。  
ときどき様子を、  
見に行ってみよう。



つまり、確信度の伝達は・・・  
相手に対する配慮に他ならない

それは「問い返し」と同様に

自分を正確に認識する、もしくは  
認識しようと努める志向は

他者との関係の中で育つもの

👉 「問い返し」

発達障害の子どもは多くは、  
自分の判断に対する確信度を  
的確に伝えてくれないことが多い



なぜなのだろうか

理由①

確信度を測ることができない

理由②

相手や状況への配慮が足りない

理由③

確信度を言葉で適切に表現できない

確信度は、%では表現しない。だから  
さまざまな言語表現を使うことになる

たぶん、  
できると思う

できるかもしれない



できるんじゃないかなあ

絶対できます

確信度を表すことば



100%

確信度

絶対に  
必ず

～ます  
～ません

はい  
いいえ

たぶん ～と思う



50%

～かもしれない ～かなあ  
～どうか自信がない

確信度の表現



話し手の推測を表すもの



ムード mood

\* 話し手の気持ちや心の状態を表す文法形式

ムード

- \* 勧誘 : いっしょに食べましょう
- \* 伝聞 : おいしいらしい
- \* 推測 : 雨が、降るようだ

副詞 たぶん、間に合います。  
かならず、終わります。

終助詞 できるかなあ..

助動詞 できそうです

ムードの習得は大切

でも、ムードは難しい  
どうしてかというと..

自分や相手の心や、  
その場の状況を  
察する表現だから

ニュアンス

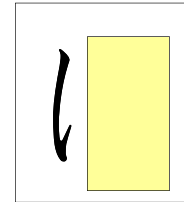
もっとムードの学習を  
大切にすることがある

ムードを表す  
副詞や終助詞・助動詞の  
効果的な学習方法を  
考えていきたい

「～かなあ」の練習課題

「け」、  
かなあ…

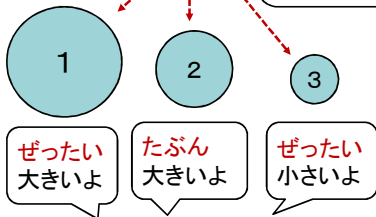
なんの字  
だと思う？



「成長する教師の  
ための日本語教育  
ガイドブック」より

「ぜったい」  
「たぶん」  
の練習課題

これより、大きいかな、  
小さいかな。  
「ぜったい」か「たぶん」  
を使って、言ってみよう



ぜったい  
たぶん

嗜好

と

志向

多分、人間にとって  
最も大切な領域

手を止めるとき

「自分」とは、  
どこに、あるんだろうか…



そして、  
「自分」という意識とは何だろう…

私たちは、自分は自分、という意識を持っている

我思う、故に我あり

でも、ふつうは、自分のことを忘れて、  
世界に溶け込んで生きている。

では、どんなとき、自分を意識するだろうか。

どこか痛いとき。  
病気で苦しいとき。  
何かを問われたとき。  
何か困ったことが起きたとき..

## コヒーレント相と、非コヒーレント相



\* ロボット工学の用語

コヒーレント相

非コヒーレント相

ロボットの予測通りに  
事態が進行している

予測通りに行かず、  
不安定になっている

秩序的

非秩序的

2つの相が周期的に移り変わる

## この2つの相は、人間の日常でもある



作業(活動)が  
順調に進んでいる

自分は意識に上らない



作業(活動)が  
予測通りに進まない

自分が、意識に浮かび  
上がって来る

私たちは、時々、  
何かに行き詰まり、活動が滞り、

ふと、手を止める

その瞬間に、私たちは自分を振り返る

環境と一体化していた自分が、切り離されて、  
「私」が浮かび上がって来る

目の前にいる、子どもが、プリントや課題を  
進める中で、手を止め考えているときがある

その瞬間、子どもの中には、「自分」という意識が  
立ちあがっているはず。

そのような、ふと手を止めるときに、  
「自分」は育っていくのでは、ないだろうか

「手を止めるとき」を、たくさん重ねて行けるような、  
学習や活動が、きっと大切なのだろう。

社会が「自分」を育て  
「自分」が社会を育てる

「自分」とは、  
どこに、あるのか



それはもしかしたら、社会の中での  
コミュニケーションに、  
あるのではないだろうか・・・

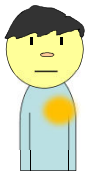
社会の中で、人と様々なコミュニケーションを築いて行くために、「自分」という意識が生まれるのではないか。

そしてまた

より明確な「自分」が生まれることにより、  
社会は、より高度に認識されて行くのではないか

\* きっと「自分」と社会は  
地と図のような関係にあるのだろう

社会・他者




社会への働きかけが  
自分をかたどって行く

【今回お話ししたかったこと】

- 自己認識の向上は、心のリスクを伴う
- 自己認識にはさまざまな領域がある
- 「経験」の認識には、「こと」の理解が必要
- 自己認識には、「常識」の形成が不可欠
- 「所有」の認識には、社会概念が必要
- 「能力」の認識には、クロス処理が重要
- 自分の認識の確信度を伝えることが大切
- 確信度表現のムードの学習を進めよう
- 嗜好と嗜好はもっとも重要な自己認識
- 学習の中で、手を止めるときを大切にしよう

【参考・引用図書】

- 「知識の謎」講談社ブルーバックス 
- 「問題解決の心理学」中公新書
- 「幼児期」「ことばと発達」「子どもとことば」岩波新書
- 「心を生み出す脳のシステム」NHKブックス
- 「心の科学は可能か」東京大学出版会
- 「子どもはどのように心を発見するか」新曜社
- 「子どもたちの言語獲得」大修館書店
- 「ことばの発達入門」大修館書店
- 「考えることの科学」中公新書
- 「じぶん・・・この不思議な存在」講談社現代新書
- 「ロボットのこころ」森北出版
- 「こどもの認知発達」新曜社
- 「愛人」河出文庫 □「アンドリューNDR」コロムビア映画